

MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

2015年3月号



発行人：濱塚有史 編集人：家村知佳 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1
TEL 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/>

「感謝」

山内 洋子 (ベスト・キッズ 保護者)

こんにちは。YMCA本町サッカースクールとベストキッズでお世話になっております、山内陽太の母です。

我が家のこのごろの学校以外の生活は、ほぼYMCAサッカーとともにあります。火、土、日のベストキッズのことばかり考えていて、ちょっとした家庭の用事は差し置いて週末の最優先事項です(笑)。

4年前に環境を変え、釜石から盛岡に越してきて、本町スクールに出会い、その後ベストキッズにも所属して、今に至ります。楽しいながらも時には陽太なりに悩んだり、迷ったりしつつ、でもこれまで頑張ってきたのは、スタッフ・リーダーの暖かい笑顔、そして何より、大切な信頼できる仲間ができて、目指す同じ目標があるからなのかなと思います。

どうしても連れて歩くことになるおまけの妹2人も、スタッフ・リーダー、仲間のお父さん、お母さん、弟、妹さん方にもとてもお世話になっています。厳しい監督、高い高いをしてくれるお兄ちゃんお姉ちゃん、ジャンプコミッ

クを共感してくれるおじちゃん、母より面倒見の良いおばちゃん、真剣にバスケ勝負!?をしてくれる先輩、肩をぴったりくっつけて一緒にご飯を食べてくれる仲間(すいません、いっぱいあって)などなど。練習や試合はもちろん、日常のちょっとしたつながりでも絆が深まっていること、私ひとりではどうしても足りないもう1本の手を差し伸べていただいていることに心から感謝し、これからもみなさんと関わっていきたいです。

サッカーをしているので、サッカーが上手くなってほしいとか、試合に勝てばいいなとか、つつい欲を出してしまったりもしますが、それだけでなく、協調、判断、笑顔など心も鍛えて育ててくれる、YMCAサッカースクールとベストキッズは我が家にとってそんなところなんです。

気がつけば、小学最高学年になろうとしています。仲間とともに気持ちと力をひとつにし、最高のチームを目指して頑張りたいです。

いじめをなくそう！★ピンクシャツデー★

2月25日は、「ピンクシャツデー」でした。ピンクシャツデーとは、カナダ発祥の、ピンクの服や小物を身に着けて「いじめ撲滅」の気持ちを表す日です。

2007年、カナダのとある学校にて、ピンクのシャツを着ていた学生がゲイだといじめられました。それを見た他の学生たちは、ピンクのシャツを知人に配り、それを着て登校するよう呼びかけました。次の日、シャツを配られた学生のみならず、ピンクシャツの話や伝えた他の仲間たちまでもがピンクの服や小物を身に着け、学校中がピンクに染まったのだそうです。そうして、その学校ではいじめが自然となくなりました。

この話がSNS等で広まり、今ではピンクシャツデーは英語圏で広く知られる日となりました。日本でも昨年度より、じわじわ

と広がりを見せています。

盛岡YMCAでは、今年度より、ピンクシャツデーの取り組みをはじめました。事前に、水泳・サッカー・学童の会員の皆様にはピンクシャツデーのお知らせをお配りし、呼びかけを行いました。当日には、学童の子どもたちを中心に、たくさんの方々が取り組みに参加してくださいました。感謝申し上げます。ありがとうございました。

当日は、この「いじめ撲滅」のための取り組みに、子どもたちが笑顔で楽しそうに参加してくれたことが大変印象的でした。

この取り組みが、「いじめ」について考えるきっかけとなり、そして、いじめをなくしていくための第一歩となることを願っています。



↑ 盛岡YMCA本町センター前にて、ピンクの服や小物を身に着けたスタッフとリーダーで写真を撮影しました。



こちらはぶらいむ・たいむ本町校の子どもたち。学童中のピンクのものを集めて、「ピンク屋さん」を開いていました！ ←



ぶらいむ・たいむ向中野校の子どもたちは、ピンクの服を着てピースサイン！笑顔あふれるピンクシャツデーとなりました。 ←

向中野センター長 小川嘉文 アメリカ研修のご報告

今回、アメリカ時間の2月17日～20日で行われるYMCAプログラム・エキスポ2015(米国スタッフ研修)に参加すべく、2月16日から23日までの日程でアメリカに行っていました。日本のYMCAからは、横浜、岡山、茨城、盛岡のチャイルドケアスタッフが4名参加しました。エキスポ自体は全米のYMCAスタッフを中心に様々な国から総勢1600名のYMCAスタッフが集まり、まずはその規模の大きさに驚かされました。今回のエキスポのテーマは【トランスフォーム】。トランスフォームとは「変わる」という意味だそうです。チェンジではなく何故トランスフォームなのかを考えながら、研修に臨みました。

研修では、全米のYMCAでの各プログラムの成功事例をもとに、取り組みやそれによってYMCAに集う人々(子ども達や地域の人々)にどのような変化をもたらされたのか、また期待されるのかといった講義や、参加者同士で交流をしながらの学びを中心に行われました。また、エキスポ中に現地のYMCAの施設の見学も行きました。見学したのは、いわゆる幼稚園である3歳～5歳対象のプリスクール、小学校の中で、放課後の児童を預かるアフタースクール(学童保育の事です。)、高校生の放課後の集いの場となっている高校生アフタースクールの3つの施設です。どの場所でも、子ども達は皆、日本と変わらずとても元気いっぱい、触れ合いながらとてもうれしく感じました。

また、アメリカでは多くの地域で見受けられる事だとの事ですが、我々が見てきた施設の地域はいずれも、保護者世代の就労難のための貧困による、子ども達の学力格差、社会的格差が課題となっていました。各施設では課題解決のため、施設内での学力向上や、子ども達が将来を

見据えるうえでの選択肢の一つとして、大学進学があるという事を伝えるカリキュラムが精力的に行われていました。貧困の理由の一つとして学力格差から安定した職につけない事があげられる地域だからとの事でした。また、高校のアフタースクールでは、高校生達の居場所としての役割の他、将来自分が手に職をつけるための技術を身につけながら、実際に地域からの仕事を受け、YMCAディレクターのサポートの元、報酬をもらい経験を積んでいくとの事でした。そこで得た報酬は、先ほど述べたようなさらに次世代を担う幼稚園、小学生たちの環境作りのためにも充てられているとの事です。

解決するには、とても時間を要する課題ではあると思いますが、次世代を担う若者をサポートしながら、さらに年少の次世代の環境も作り出していくという形は、地域にとってもとても大切であると話を聞きながら感じました。日本、そして私のいる盛岡での課題や、ニーズは私がアメリカで見てきたものと同じということはもちろんありません。私がいるこの盛岡の地で地域のために出来ること、これからの地域を担う若者たちのために出来る事を常に模索し、ただ変わってだけでなく、良い部分や積み上げてきた部分はしっかりと根差したまま、より前に向かって進化していく事がトランスフォームなのではないかと感じた1週間でした。

今回この様な学び、気付きの機会を下さり支えて下さった皆様、本当に有難うございました。

向中野センター長 小川嘉文



↑ 研修初日の一コマ。一つ身につけるものを選び写真をとり、他者と自分の違いを表現し、認め合う課題の様です。



↑ 宮古を支援して下さった「VFW」という団体に伺い、お礼と報告を兼ねてプレゼンテーションを行ってきました。



↑ ロングビーチYMCAのアフタースクール(学童)の様子です！



↑ 最終日には、グループに分かれ、テーマに沿った課題にチャレンジしながらチェックポイントを回りました。

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 2月報告書

昨年は大雪、今年は比較的穏やかな2月を過ごすことが出来ました。1月もあっという間に過ぎ2月も残すところ1週間余りとなりました。皆さんが読むころには3月に突入していますね。2年間の任期も残りわずかとなりました。多くの方々を支えられ、宮古での活動も楽しく過ごすことができました。

2月に入り、二中仮設での餅つき、アドベンチャー2月例会雪遊び、立教大の学生9名、慶応義塾大の学生1名が2月15日(日)～18日(水)の4日間、宮古での活動を共に過ごすことが出来ました。3日目には久々の地震を経験した学生たちですが大きな被害もなく無事プログラムを進められたことに神様のお守りがあったと感謝しています。

震災から4年を迎えようとしています。公営住宅の建設も着々と進められてはいますがまだまだ不便な生活を強いられていることを皆さんも覚えていただければと思います。皆さんの知らない世界が被災地では起きています。心身ともに疲れている方、心に傷を負ったまま誰にも話すことなく暮らしている方、そんな中でも前向きに物事を考え進んでいる方もおります。被災地での活動も残り僅かになりましたが、この地での出会い、つながりを忘れることなく、これからも継続的に活動をしていきたいと思っております。

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 斎藤勉



雪遊びのワンシーン！
そり遊びをしていた子ともたちですが、いつの間にか雪合戦がはじまりました。←



仮設の皆さんとの語らいの場！
今までの環境の変化をお話しくださいました。学生たちには貴重な経験、お話をした。←

宮古の高校生との交流☆なんだり食うべ！

2月21日、宮古ボランティアセンターにて、盛岡の大学生と宮古の高校生との交流イベント「なんだり食うべ！」が行われました。このイベントは、盛岡YMCAのインターン生であるモスラリーダーこと杉村玲奈さん、ハトリダーこと後藤翔大さんを中心に企画されました。

宮古には、高校生たちが集う団体「みやっこベース」があります。今回の活動においては、みやっこベースのご協力をいただき、宮古の高校生たちと交流をもつことができました。

イベント名の「なんだり食うべ！」とは、宮古弁で、「いろいろ食べよう！」という意味です。「食べる」ことから新しい交流が生まれることを願って、このイベント名となりました。

当日、盛岡の大学生と共に宮古に赴くと、やや緊張した面持ちの高校生たちが待っていました。しかし、二人一組になって、組んだ相手のことを紹介する「他己紹介」を終えた頃には、みんな屈託のない笑顔を見せてくれるようになりました。

今回は、大学生と高校生混合のグループで一緒に料理をつくり、その料理をみんなで食べる、といった活動を行いました。料理の材料は、宮

古市内の商店街にて、自分たちで選びます。各チームに与えられた材料費は2000円。その中でおいしい料理をつくらなければならないとあって、各グループとも真剣に材料選びを行っていました。

材料がそろったら、次は料理タイム！料理をしながら、どのグループも会話が弾みます。中には、「パエリアを作る！」と言いながら、クレープを作っていた不思議なグループもありました。

各グループの料理が揃ったら、美食タイムです！自分のグループの料理だけではなく、他のグループの料理も味わいます。そして、どのグループの料理が一番おいしかったか、投票で決めました。見事グランプリを獲得したのは、お好み焼きを作ったグループ！グランプリのグループには、金メダルのようにデザインされた缶バッジが贈られました。

今回のイベントは、インターン生2名の、9か月間にわたる活動の総まとめとなります。2名とも、野外活動への参加や宮古市内での聞き取り調査など、9か月間精力的に活動してくれました。そんな彼らが企画した今回の活動は、今後の宮古と盛岡をつなぐ架け橋となってゆくことでしょ



↑ 商店街のお肉屋さんでお買い物です！どんな料理を作るのでしょうか？



↑ こちらはお好み焼きチーム。おいしそうに焼けていますね！



↑ 「パエリアを作るよ！」と言い張っていましたが…おいしいクレープを作っています。



お待ちかねの美食タイム！顔で食べてくれました。← いい

☆活動を企画したインターン生より☆

グループに分かれて話し合いから食材調達、調理に至るまで行ったため、初めて会う高校生とも仲良く企画を進めることができました。どのグループの料理も美味しく、最後まで楽しむことができました。この「なんだり食うべ！」の活動がきっかけとなって、宮古の高校生と、大学生やボランティアとのつながりが深まっていけばいいなと思います！



岩手県立大学3年 後藤 翔大 (ハトリダー)

私はこの活動で、宮古の高校生の皆とたくさん触れ合うことができました。みやっこベースのみなさんのご協力により、私と翔大くんのプログラムを行うことができました。大変感謝しております。この活動の目標は、「宮古で活動していけるボランティアさんを集める」「大学生と宮古の高校生との関わりを増やす」ことでした。大学生と宮古の高校生が「なんだり食うべ」というイベントを通して、関わりを持ち、宮古の皆さんのよりよい未来に繋げるとともに、宮古への愛情を感じ、その宮古でのボランティア活動に参加しようとしてくれれば、私たちが目的としていたものに近づきます。少ない時間ではありましたが、少しでも宮古の高校生の皆と話したり何かを作ったりすることができて、とてもいい経験ができました。協力して下さったみなさん、本当にありがとうございました。



盛岡大学3年 杉村 玲奈 (モスラリーダー)

3月の予定

- ★3月8日
森のようちえん
「そりであそぼう♪ちゃれんじキッズ☆」
(於：霽石スキー場)
- ★3月15日 9:30~12:30
もりおかYMCAフットサル大会
(於：盛岡大学体育館)
- ★3月21日~23日
スプリングスキーキャンプ
(於：八幡平リゾート
パノラマ・下倉スキー場)
- ★3月28日~30日
3月アドベンチャー
「分校に泊まろう♪」
~手作りソリで滑ろう!~
(於：思い出の湯分校)

★リーダーおすすめBOOK★

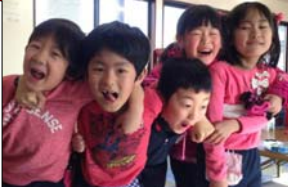


リーダー達のおすすめの本を紹介していくこちらのコーナー、今回の担当はばっけリーダー!
ばっけリーダーは、2冊の本をおすすめしてくれました。そのため、2か月連続でばっけリーダーおすすめの本を紹介していきたいと思います。まずは第一弾です!

こんにちは、ばっけです。私が皆さんにオススメしたい本は、「つみきのいえ」という本です。
このお話には、ある1人のおじさんが登場します。このおじさんが暮らしているのは、なんとつみきのようないえなのです。どうしてそんないえに住んでいるのでしょうか…。それは、水がどんどん増えてしまっ、いえがその水の中にしずんでしまからです。おじさんは、それをふせごうといえをつみ上げていったのです。そしてもう1つ、おじさんにはこのいえを離れることができないわけがあるのです。いったいそのわけとは?そしてある日、おじさんはいえのすつと下のほうまで落しものをしてしまいます。その落しものを探しに、水の中をもぐっていくおじさんが見たものとは…
私はこの本を読み終えたとき、なんだかこころがホッとあたたかくなるような、そんな気持ちになりました。そして自分にとって何が大切な存在なのかを考えるきっかけにもなりました。ぜひ皆さんも一度はこの本を手にとって、じっくりと読んでみてください。

表紙の写真から

2月25日のピノックシャッターに笑顔で取り組んでくれた、ぶらいむたいむ向中野校の子たちです!



君でいいんだよ ~JUST THE WAY "YOU" ARE ⑨~



祈ること



雨の日には
雨の中を
風の日には
風の中を

2月15日、NHK『日曜美術館』において「自分のことは、自分の書~ 書家で詩人 相田みつを」が放映されました。詩人で書家であった相田みつを氏は、冒頭の詩を人生の中でなんども書て表わしています。番組では、40代、50代、そして67歳で亡くなる年の書が紹介されました。

40代の時の書は、激しくまるで暴風雨の中に立たされているような作風です。雨風の中、何とかしようともかいている感じがします。ところが同じ書が時間が経つにつれ整えられて行き、晩年の書はひとつひとつの行がまるで竹の子が天に向かって成長していくように整然と表現されています。録画した画面を一時停止にしてじっと見つめていると、雲の中から日光が差し、そよ風が吹き始める光景さえ目に浮かんでくるようでした。

岡山にあるノートルダム清心学園理事長の渡辺和子氏は、その著書の中で、『置かれた場所で咲きなさい』と述べています。たとえ、今の自分が暴風雨のような過酷な状況や自分の望まない状態に置かれていたとしても一方的に他者や社会のせいにするのではなく、ひとつひとつの出来事を真摯に受け止めていく。そうすれば、やがてその時は、どうしようもないと思った多くの事柄がいっしょに整えられていくのかも知れません。しかし、これは渦中にある本人にとっては、とても難しいことです。

先日、ある方からキルケゴールの言葉を教わりました。

祈りは、神を変えられないが
祈りは、祈る人を変える。

「祈り」とは、ある意味で自己を見つめ、自己を受け入れる道のりとも言うことができるでしょう。キリスト教の渡辺さんは祈りを通して、曹洞宗の相田さんは禅を通して、自己を真摯に見つめていかれたのだと思います。そして、人間を人間たらしめるものは、こうした行為のことのようにも思えてきます。

(盛岡YMCA総理事 濱塚 有史)

☆リーダーOBの活躍☆

盛岡YMCAリーダーOBの葱リーダーこと末廣光輝さんが、デイサービスを開所したとのことですよ!
ご本人よりメッセージをいただきました。
「デイサービスきさいや」に興味をお持ちの方は、ぜひ、盛岡YMCAまでご連絡ください!

初めまして、盛岡YMCAリーダーOBの葱(末廣光輝)です。

私は、岩手県立大学社会福祉学部に入學し、先輩の誘いで盛岡YMCAの活動に参加するようになりました。大学時代は、アドベンチャー、サッカー、水泳、キャンプと子どもたちとわいわいと騒ぐ日常を過ごし、就職してから、バスケの活動など続けられる範囲で参加していました。もともと介護をやりたい、という気持ちで岩手県立大学に入り、介護の勉強をして、就職先でも、介護福祉士を1年、通所と施設の相談員(社会福祉士)を合わせて3年と9カ月行いました。

盛岡YMCAでは、私自身が関わるだけでなく、違う小学校の子どもたちが活動で初めて会い、そこから関係をつくっていく姿、そして一緒に遊んでいて、時に意見が違ったりとたくさんの方を見て、関係をつくることの難しさや関係があることでの楽しさ、そして子どものもつパワーなどを肌で感じる事ができました。

しかし、介護の世界となると、なかなかそこまでお互いの関係を大事にするということはあまりありませんでした。もちろん認知症などの病気や障がいのため、お互いの関係が作りにくくなっていくことでもあります。関係が少ない方ほど、陰気であったり、より症状が悪化したりしているように感じました。しかし、お年寄でも友人知人が多い人や施設でも近所の保育園児が遊びにきたりと、何か人と関係を持つ機会があるときは、やはり自然と笑顔が多く浮かんでいます。

なかなかうまくいかない介護のサービスのなかで、でき

れば少しでも笑顔でいられるようにできないかと感じる日々が続きました。そこで、大学時代に講義の中で少し学んだ「富山型デイサービス」というものに挑戦してみたいと思い立ち、実際に、富山で講座を受講し、いくつかの施設にボランティアもさせていただきました。もともとデイサービスとは、介護保険をつかったお年寄りの通いのサービスのことで、ここに「富山型」とつくと、少し中身が変わってきます。富山型は、地域のおきな規模で、お年寄りだけでなく、赤ちゃん、子ども、障がいのある方など、対象者を限定せず、一つの空間で1日1日を過ごすことができる、富山県発祥のデイサービスです。

ここでは、お年寄り同士の空間では生まれにくい、子どものパワーを感じて、お年寄りが張り切ってみたい、障がいのある方がお年寄りのちょっとしたお手伝いをして、社会参加の自信としたり、そんな暖かい空間の中で子どももお年寄りや障がいのある方と接し、感じ、考える機会を持ち過ごすことができます。

そんな人の関わりからうまれる、感情や考え、そしてその人「らしさ」を大事に、お手伝い、介護をしていきます。

そして、盛岡でもこの素敵な空間を作りたいと、1年と3カ月の準備期間を経て、「富山型デイサービスきさいや」を開所するに至りました。「きさいや」は、愛媛弁で「どうぞお越してください!」という意味です。いつでも、誰でも、きさいや!というモットーをもとに、この名前にしました。

開所予定日は3月16日です。盛岡ですが、富山型。小規模だから一人一人としっかり関わり、たくさんの人間関係のあるあったかい場所づくりを目指しています。もし家族様、お知り合いの方で、介護や福祉の面で私にお手伝いできることがありましたら、一度ご連絡、ご相談いただければ幸いです。

Rashiku株式会社 デイサービスきさいや
代表 末廣 光輝(葱)

感謝

(2015年度2月28日現在)
順不同・敬称略

♪結婚しました♪



向中野センター元スタッフの「あん にん」こと菊池景子さん、結婚しました♪なんと、今年にはママになること。きっと素敵な家庭を築くことでしょう。未永くお幸せに!

- 維持会費
今野聖子、今野健男、角谷晋次、角谷千代子、光永尚生、朴正弘、濱塚有史、濱塚真美、井上修三、井上浩太郎、井上優子、伊藤克見、大関靖二、工藤直子、佐藤翔、川坂保宏、及川茂夫、及川恵、名古屋恒彦、熊谷力實、珠興和電、小畑孝子、田村治之、水田賢次、南原良設、一戸真文、小関悦子、阿部博、川守田浩金、金節子、金野東輝子、森山日菜乃、森山幹大、滝川佐波子、押切梓、岡田虎治、伊藤眞一、伊藤愛美、及川忠入、重石正彦、伊藤眞一、魚住英昭、高瀬裕彦、清水治彦、中屋重正、古澤伸、鶴丹谷三千代、小林茂元、吉崎陽、小川嘉文、小川明佑、神田橋慧一、菊地弘生、今松桂子、木田泰之、千葉洋子、河合誠雄、熊谷久仁子、池田二子、松尾聡子、社会福祉法人イエス、友愛幼児園、松尾聡子、人見晃弘、飯島隆輔、山口貴伸、松本武彦、深澤秀男、深澤多紀子、石渡隆司、石渡隆司
- 寄付金
角谷晋次、光永尚生、朴正弘、濱塚有史、佐藤翔、及川茂夫、熊谷力實、水田賢次、南原良、中村恵美子、伊藤眞一、花田隆、中屋重正、石渡隆司
- 東日本大震災被災地支援募金・献品
林辰也、佐々木翔一朗、佐々木学人、港小畑孝、岩井和己、学校法人広島YMCA学園、小畑孝子、日本キリスト教団内丸教会、NPO法人茨城YMCA、吉崎陽、捜真小學校(横浜市)、木田泰之、エニチヤリテイコンサート実行委員会、坂田晃一、佐藤大倫、佐藤匡子、松尾聡子、青山学院大学宗教センター、オール青山ハインドール実行委員会、領家短期大学、人見晃弘、飯島隆輔
- 国際協力募金
中条和哉、岩井和己、大関靖二、岡田虎治、熊谷圭祐、伊藤眞一、フジグリーン岩手、濱塚秋二、濱塚れい子、鶴丹谷三千代、魚住英昭、増田隆、今松桂子、熊谷太、濱塚有史、盛岡チャペル、早坂明、鬼柳忠彦、上中優奈、杉田弘美、小笠原邦夫、山崎詩織、長岡明日海